

3つのポリシー(短期大学部)

建学の理念	「公正な世界観にもとづき時代と社会の要請に応えていく実学」の教授研究を通して、「国際社会に貢献できる豊かな教養を備えた人材」を育成します。
大学の教育理念・方針	<ul style="list-style-type: none"> ・ 短期大学教育を高等教育の「ファーストステージ」として位置づけ、就職や学士課程への編入学へと繋げる「言語運用能力」と幅広い教養や知識、人間性といった「基礎的人間力」の修得をめざします。 ・ 言語を「コミュニケーション・ツール」として位置づけ、より実用的な言語教育を行います。 ・ 言語教育にとどまらず、平和な国際社会の構築に貢献しうる人材として必要な国際教育に力を注ぎ、豊かな人間性に裏付けられたコミュニケーション力を培うための教養教育を重視します。
学部(学科)の人材養成目的	英語を中心とした言語運用能力の向上を図るとともに、日本と世界のなかで交流するときに求められる人間力と教養を高め、実践的な職業人または国内外の学士課程教育でより高度な専門性や教養を考究できる人材の育成を目的とします。
学位授与の方針(DP)	<p>本学科の人材養成目的を達成するため、次に掲げる知識・技能などを身につけた者に、「短期大学士(英語学)」の学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実用的な英語力を身につけ、意志疎通を図ることができるようになる。 2. 論理的思考力、考え抜く力、チームで働く力などの人間力、ならびに幅広い教養を身につけ、グローバル社会で活躍できるようになる。
教育課程の編成・実施の方針(OP)	<p>〔教育課程の編成にかかる基本方針〕</p> <p>本学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・技能などを修得させるために、専門教育科目、共通教育科目を体系的に編成し、授業を開講します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ コミュニケーション・ツールとしての実用的な英語力の養成をめざします。 ・ 英語力育成の重点化とともに、社会活動に適應できる「人間力」の養成をめざします。 ・ 学生一人ひとりのキャリア目標実現のため、職業人養成ならびに学士課程教育につながる体系的で柔軟な教育課程をめざします。 ・ 専門教育科目において、英語学・文学等に関する科目とともに文化・歴史・社会等に関する科目をここに位置づけ、これらの科目について一定程度の深い専門性を加えた内容を学習することによって、いわゆる「外国学」を広く修得することとし、共通教育科目を含めた教育課程全体で「幅広い教養と豊かな人格形成」をめざします。 <p>1. 教育内容について</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 1年次を英語力の集中育成の段階と位置づけ、「College English Grammar」「Integrated English」等により、実用的な英語力の基礎の修得をめざします。 (2) 2年次においては、Content-based approach(内容重視の外国語教育法)を用いて、社会科学や時事問題等を英語で学び、知識はもとより自分なりの意見を論理的に述べる発信力を育成します。 (3) 「K.G.C.ベーシックス」、「アカデミック・キャリア形成科目群」「グローバル・スタディ科目群」「サービス・ホスピタリティ科目群」により、卒業後の一人ひとりに合ったキャリア形成を図るための必要な知識や論理思考力、考え抜く力、チームで働く力などの人間力を身につけるとともに、健全な勤労観や職業観を養います。 <p>2. 教育方法について</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 主体的に学ぶ力を高めるため、ディスカッション、プレゼンテーション、グループワークなどの教育方法を活用したアクティブ・ラーニング型授業を実施します。 (2) 産業界等と連携したProject-based learning(プロジェクト型学習授業)の授業等を通して、キャリア意識の形成を図ります。 (3) クラス担任制により、2年間の学びを通して順次的・発展的に学修が行えるように学修支援ならびに指導を行います。 (4) 本学独自の多彩なプログラムによる海外提携校への留学を推奨し、留学先大学での学修を通して、知識はもとより国際感覚などを身につけます。 <p>3. 学修成果の評価について</p> <p>学修成果の評価は、単位修得の確認、ルーブリック等により行います。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 修得科目、留学等の体験、およびクラス担任による面談記録など2年間の学修記録を活用し、学修成果の到達度をディプロマ・ポリシーに照らし総合的に評価します。 (2) 本学で開発する「K.G.C.ルーブリック」(関西外国語大学短期大学部ルーブリック)により、学修過程とその成果についての可視化を行います。 (3) 1年次にはTOEFLの受験を義務づけ、1年次の英語の学修成果を補完的に検証します。

3つのポリシー(短期大学部)

入学者受入れの方針(AP)	<p>本学科の教育上の目的として定める人材を育成するため、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを踏まえ、「求める人材像」を次のとおり定め、高等学校での学習を通しての基礎的な知識として、英語力を中心とする基礎学力などをもとに選抜を行い、入学者を受け入れます。</p> <p>1. 求める人材像について 高等学校までの履修内容を通して、論理的に自分の意見を発信でき、とりわけ「英語」の学習において、「聞く・話す・読む・書く」の4技能の基礎的な内容を身につけた上で、 (1) 実用的な英語力を向上させるとともに、幅広い教養を身につけ、国際社会の舞台で活躍するキャリア形成をめざす強い意志を持つ人 (2) 英語力の向上、人文科学、社会科学における専門性に関する基礎学力などを身につけ、学士教育課程への編入学をめざす強い意志を持つ人</p> <p>2. 評価方法について 上記のような学生を選抜するため、形態ごとに以下のような試験を行い、本学で学修するための基盤となる学力などについて評価します。</p> <p>(1) 一般選抜 ア. 一般入試 個別学力検査(外国語、国語)により評価します。 イ. 大学入学共通テスト利用入試 大学入学共通テストの得点により評価します。</p> <p>(2) 学校推薦型選抜 ア. 公募制推薦入試においては、基礎学力検査として英語を課し、調査書等、学校長推薦書を総合して評価します。 イ. 指定校制推薦入試においては、書類選考および口頭試問(面接)を総合して評価します。</p> <p>(3) 特別型選抜 ア. 社会人入試においては、書類選考、筆記試験(英語、小論文)、口頭試問(面接)を総合して評価します。 イ. 帰国生徒入試においては、筆記試験(英語、小論文)および口頭試問(面接)を総合して評価します。</p>
---------------	--

2017年4月1日施行(2017年3月11日制定)
2018年4月1日施行(2018年2月26日改定)
2018年9月1日施行(2018年10月19日改定)
2020年4月1日施行(2020年3月7日改定)
2021年4月1日施行(2021年3月10日改定)